

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0591100060		
法人名	(有)バスケの街能代企画		
事業所名	グループホームあにの里		
所在地	秋田県北秋田市阿仁銀山字上新町80-7		
自己評価作成日	平成24年9月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成24年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんの安全・安心を心掛け、これまでの暮らしを大切にしながら、得意な事や興味のある事を、入居後も継続できる様に支援させていただいています。農園の野菜の・生長を身近で感じ・四季の花々に触れたりする事を大切に互いに協力し合いながら、地域の中で皆さんの理解・協力のもと楽しく生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

裁縫が得意な入居者には雑巾縫いを、山菜の下ごしらえや皮むきが得意な入居者には調理の手伝いを頼むなど、前向きな気持ちを引き出すよう努めている。機能訓練の一環として、日常的な散歩の支援や小学校低学年の計算・漢字ドリルを活用し、楽しみながら取り組んでおり、入居者、家族からも好評である。馴染みの人との関係を継続すると共に、家族との絆も大切にしており入居の際には、自宅等への外泊の支援を要請しており、入居者の気持ちの安定につなげている。また、職員は毎月持ち回りで、自らの言葉で目標を作成し掲げており、事業所の理念を含めて支援のよりどころとして日々の業務にあたっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で理念を作り上げ、共有し実践している。	事業所の理念の他、毎月職員が持ち回りで自分達の言葉で書き上げた目標を、事務室内に掲げており浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の祭りや行事に参加したり、施設の行事等にも近隣の方々に参加してもらい、つながりを持ちながら、地域の中の施設として交流している。	地域より高齢者の介護等に関する相談等が寄せられている。内容により地域包括支援センター等を紹介、引き継ぎすることで、介護サービスの受給につながることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症サポーター養成講座の開催や、スタッフもサポーターの一員としての自覚を持ち、随時相談に乗る等している。また、運営推進会議での地域からの質疑等に応えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方々も、利用者さんの特徴等を理解され、質問等も積極的に出されている。避難訓練には毎回参加していただき、施設の実情を把握してもらっている。災害等が起きた時は運営委員の方の町内からも支援がいただける体制にあります。	会議では、利用者の様子や事業所の行事、運営面や、地域の話題に至るまで、活発な発言をしている。運営推進委員からは、利用者の通院や外出の付き添いなどの協力の申し出があるなど、良好な関係が築かれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	都度、相談や疑問について受けていただいている。運営推進会議等の席でも、ありのままのホームの姿を見ていただいている。	事業所の外部評価等の報告は、本社から市町村へ届けられている。市の担当者が運営推進会議に参加しているが、より地域に密着した立場からの参加も模索しており、地域包括支援センターの職員に参加してもらうことも検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や、高齢者虐待について職員間で学ぶ機会を定期的に設けており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年間計画を作成しており、全職員が研修を受講している。また、研修に参加した職員は会議等でその内容を伝達しており、情報の共有に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や、高齢者虐待について職員間で学ぶ機会を定期的に設けており、虐待の無いように注意を払ったケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部の研修に参加し、学んだ事を他スタッフへも伝える場を設け皆で学習している。実際に制度を活用した例はまだ無いが、必要時は活用して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に利用者さん、家族さんと面談する機会を設け、不安や疑問を解決し、納得された上で後日契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフとの日常の会話の中や、後日、電話等で意見や要望を出して下さっている。意見伺い箱の活用も入居時に説明しており、意見や要望には速やかに対応し、改善につなげている。	比較的近くに住む家族は、仕事帰り等に事業所に寄り、近況報告や家族の思いを聞いている。遠方にいる家族は、様子伺いの電話をくれることが多く、その際に意思疎通や情報の共有をしている。家族の意見によりナースコールの設置に結び付いた事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議後に会議の内容を報告するとともに、今後へ向けた意見交換をしている。月に数回は、代表者と話し合う場があり意見・要望を伝え対応してもらっている。	新入居の決定においては、職員間で話し合いを行い、その結果を代表取締役が決定している。意見や要望は伝えやすい雰囲気や、職員同士の新たな発見等のため、北秋田市のグループホーム連絡協議会への参加を検討していくことも期待される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を職員に周知しており、日頃より努力し向上心を持って仕事に取り組んでもらっている。また、利用者さんとの係わり合いなど、地味な部分にも目を向けて評価しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の経験や能力・実力にあった研修等に参加できるような体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特定の同業者と交流・意見や情報の交換を積極的に行っている。互いの良いところを得て、サービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談で可能な限り、訴えや要望を聞き不安の解消に努めている。入居の際は、面談時に対応した職員が対応し、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用開始まで、家族さんとの面談や電話相談で心情を受け止める努力をしている。入居後も状態が落ち着かれるまで、連絡を密に入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	場合によっては環境を変え、スタッフ・利用者さんと言う関係にこだわらず、喜怒哀楽を共にし、支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんの想いを、家族さんに都度連絡し、本人の意向を大事にしながら、家族と繋がっている事を感じていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないよう、入居後も、ホームや、外出先で共に過ごす時間を支援できるように努めている。入居者の希望する場所へのドライブへも出かけている。	入居の際には、利用者の自宅等への外泊について家族等へ協力を要請し、家族との絆が途切れないよう配慮している。お盆・正月・連休には利用者の希望に合わせて家族との日程調整を行い、外泊の実現に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立する方が居ないように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じ相談を受けたり、街で会った際に声を掛け合い、関係を断ち切らない付き合い方をしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々人の想いや願いを聞く機会を設けている。困難な場合は、家族から意見を伺う等して対応している。	要望等は、利用者から直接聞き取ることが比較的可能であるため、なるべく早く実現できるよう取り組んでいる。家族とは、電話連絡や仕事帰りに寄ってもらうなど、都合を合わせながら話を聞く体制づくりに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バッググランドアセスメントの活用に努め、利用者さんの生活歴を把握した上でその方に合ったケアへつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	在宅時に利用者さんが日課にしていた事を継続できる様に努めている。また一人ひとりの有する能力が衰えない様に、日常の簡単な作業も行っていたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアに対するアイデアを家族や関係者からも出していただき、それを反映した介護計画を作成している。	例えば歩行が不安定な利用者の居室変更の提案に対し、家族からは「ゆっくりでも歩くことで機能の低下を防ぎたい」との要望が出されることもある。そのような家族との話し合いを重ねた上で、ケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送り時に情報の交換を行い、改善すべき点について話し合いを持ち、ケアへ活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じながら、民生委員の方、運営推進委員の方、近隣の地域住民の協力を得ながら、行事を行ったり、参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や、かかりつけ薬局を持つと共に、本人・家族の希望する所を利用できるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医の受診が可能であるが、利用者や家族からの要望により、概ね協力病院へ変更している。普段処方依頼している薬局からは、ジェネリック医薬品のアドバイスを得るなど良好な関係にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師に相談しながら、健康管理や、医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院関係者に速やかに情報提供をし、利用者が不安なく治療を受けられるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、家族も心配されており、状態を見ては、特養などの他施設への入所申し込みの支援を行っている。	看取り及び重度化した際の方針があるほか、利用者の状況の変化に応じて家族と話し合いを行っている。退居後の他施設への移行にも力を注ぎ、不安解消に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、北秋田市消防署の協力のもと、全職員が救急救命講習(上級・普通)を受けて実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民や、地域の方々へは、日ごろから災害時等の避難協力をお願いしている。避難訓練には、近隣の方、運営推進委員の方、民生委員の方々に参加協力をお願いしている。	非常食の備蓄を増やし、停電に備えて発電機を購入する等、対策を講じている。地域住民からは毎回、訓練に協力をもらっている。	各災害の状況を想定し、消火・避難誘導・通報係、避難経路の図式化等を検討するなどして、現在手薄と思われる箇所の確認や職員各々の意識改善につなげることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応、記録については、誇りやプライバシーに注意を払い、その方にあった対応を心掛けている。	利用者の生活歴に配慮して言葉遣いに細心の注意を払い、支援している。着替えや排泄等の生活支援の場面でも、職員はカーテンやドアの外で見守るなど、利用者ができるだけ自力で行えるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる場面での自己決定を大切にし、利用者さんが理解しやすい言葉を選び、話掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんの体調を考慮し、可能な限り、希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	理・美容については、利用者さんや家族が希望される店で出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時の体調にもよるが、準備や方付けを利用者さんと職員と一緒に、行うようにしている。	皮むき、テーブル拭き、食後のモップ掛けなど、利用者の体調を考慮しながらお願いしている。特に山菜等の下ごしらえは、率先して利用者が関わり、役割のひとつとして定着している。当日は利用者と職員が会話を楽しみながら食事をしている風景がみられた。また、近所からの手作りお菓子の差し入れがあるなど、おやつの時間の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握した上で、必要とされる分量を提供するよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態や能力に応じた口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをつかみ、オムツにばかり頼るのではなく、トイレで気持ちよく排泄出来るよう支援している。	利用者の中には、退院後から排便難がみられたが、職員の働きかけもあり、漢方の試用や、ポータブルトイレの活用、食事の工夫等を経て、今では自らトイレへ行き排泄できるようになった例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解した上で、予防のために飲食物の工夫や運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	男女別の入浴日は決めているが、体調や状況に応じて、いつでも入浴できるように努めている。	入浴日以外にも体調や状態に合わせて、シャワー浴等の支援をしている。入浴を好まない利用者には、一度声掛けをしてから間隔を置き、改めて浴室へ促すなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や、その時々体調に合わせて休息や睡眠を取れるよう、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬について理解すると共に、内服後の状態の変化についても細やかに記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、利用者さんの好み、能力に応じた活動が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	町内散歩や、ホーム前で景色を見ながら、季節を感じ、おやつを楽しむ等している。季節の行事には、皆でドライブがてら出掛け、買い物や外食を楽しんでいる。	天気が良い日には予定にないことでも、利用者の歩行の状態に合わせて、戸外へ出て気分転換をはかっている。また、食材の買い出し等の外出も喜ばれている。雪深い地域でもあり、冬期間は事業所内を歩いたり、ラジオ体操をすることで運動不足にならないよう心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さん一人ひとりの能力を見極め、お金の所持、使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の各々の場所に季節の植物を飾ったり、切り絵等を展示して。空間は利用者さんが快適に過ごす事が出来るよう配慮している。	限られた空間ではあるものの、ソファを歩行の障害にならないよう配慮しながら廊下にも設置しており、ホールや居室とは違う時間が過ごせるような場所を作っている。壁面には利用者の塗り絵や職員の装飾があり、季節感の演出に一役かっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ポーチに設置したテーブル・ベンチや、ホールや各箇所にあるソファ等で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設見学の際に、居室を見ていただき、自宅で使い慣れた家具等を持ち込まれるようアドバイスしている。	持ち込むものは強要したりせず、利用者の個性が尊重される居室であるよう配慮している。居室には家族や孫の写真、故人を悼むための位牌、これまで使用していた椅子等、使い慣れた道具が持ち込まれており、利用者好みの居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手すりを設置しており、利用者さんの目線で、安全に生活できるよう配慮している。		